

平成23年2月22日

会議録 審査内容

◇会議録

- 1 日 時 平成23年2月22日
開会 13時30分 閉会 14時03分
- 2 場 所 幕別町役場5階会議室
- 3 出席者 5名
委員長 牧野茂敏
副委員長 藤原 孟
委員 増田武夫 乾邦廣 助川順一
- 4 事務局 局長 米川伸宜 課長 仲上雄治 係長 金田恭之
- 5 傍聴者 野原恵子 中橋友子 勝毎 平田記者
- 6 審査事件 別紙
- 7 審査結果 別紙

委員長 牧野 茂敏

◇審査内容

(13:30 開会)

- 委員長(牧野茂敏) ただ今より、総務文教常任委員会を開催いたします。
本日は、付託された陳情の審査についてであります。陳情第14号、高齢者の外出の交通手段の確保を求める陳情であります。今までの経過について、局長のほうから報告をいただきたいと思
います。 事務局長。
- 事務局長(米川伸宜) それでは私のほうから簡単に経過について、ご説明申し上げます。
この陳情、11月22日に受付しております。12月定例会で総務文教常任委員会に付託されて、
1回目が12月7日に総務文教常任委員会を開催しております。この際、この陳情については継続審
査にするということで、12月16日に2回目の会議を行っております。12月16日には、企画室と合
同で音更町、芽室町の事例を研究視察する、日程については委員長、副委員長に一任するとい
うことなどが確認されています。これを受けまして、1月19日、音更町で視察研修が行われています。
簡単でございますが、このような経過です。
- 委員長(牧野茂敏) ありがとうございます。ただ今、経過についてご説明いただきました。
この経過を踏まえて委員の皆さんからそれぞれ、ご意見をいただきたいと思
います。よろしく
お願いいたします。増田委員。
- 委員(増田武夫) 19日に音更に行って様子を勉強させていただいてきました。10年来、音更が
実績があるということで、非常に町民に歓迎されている様子がみれたと思うんですが、特に昨年
の2月に新しいバスを2台購入して、実際にそのバスに乗ってきたところなんですが、購入して
運行して以来、更に利用者が増えたというふうなお話でした。音更町の役場の周りの市街と、木
野市街と別れているわけですが、本町と若干似通ったところがあると思うんですが、本町も以
前試験運行したことがあったわけですが、そのときの運行の仕方、ちょっと町民の要望に沿
ってないということもあって、利用者も少なかったのではないかと思いますけど、そうした音更の
事例なども参考にしながら、これからは幕別町としても高齢者の交通手段の確保は、どうして
も欠かせない町づくりのひとつの柱でないかというふうに、音更に行って視察しても感じたわけ
です。そうしたことから言えば、その後僕も色んな町民にあってお話を伺ったんですが、署名も1400
名ほど付けられているんですが、そのほかの人たちに色々伺いまして、こうしたことによ
って住みやすい町にして欲しいという、そういう思いを強く訴えられた点でもあります。
そうした点で、こうした事業はこれからの町づくりの柱として、重視していく必要があると思
います。
- 委員長(牧野茂敏) そのほかありましたら。藤原委員。
- 委員(藤原孟) 確かに音更町視察しまして、非常に参考にはなりました。ただ、うちの町との
違いは、JRが我が町にはあること。それと、交通の道路としてうちの町は国道一本がメーンで
あるということと、それと幕別、札内、こちらには大型の病院が無いので、病院へいこうとい
う音更のように、ある程度病院の形態が整っていると非常に利用しやすいのかな、という気も
しました。
また、忠類という地区を考えますと、合併を基にした町ですから、ここを今の段階で切り捨
てるとか、利用させないんでないかということは、また大きな問題が残るのではないかとい
うことで、私としてはまだまだ研究したいな、という意識を強くもって視察を終えて今日に至
っているということです。以上です。
- 委員長(牧野茂敏) そのほか、ありましたら。助川委員。
- 委員(助川順一) この陳情の趣旨については、皆さんおっしゃるように検討する必要があると
いうことは理解しております。後は、音更との違いとしては街中が繋がっていない、後は
大きなバスで両方つなぐのは難しいと感じていますし、次善の策としては公共交通手段のある
所までの、交通手段の確保というか、そういったことを先に考えていったらいいのかな。
あとは、先ほどもでました忠類地区、あるいは農村地区、いろいろ問題はありますけれど、
そういったとこの部分も一応、検討課題として残るのかな。ただ、このこと自体は町としても

- 進めていくべきことだと、いうふうに考えております。
- 委員長(牧野茂敏) そのほかありましたら。乾委員。
 - 委員(乾邦廣) 私も、高齢者の交通手段の確保は理解もしますし、必要だと認識はしております。でも、陳情の趣旨にありますようにコミュニティバスとタクシーの2本立てで、きておりますけれど、どちらか1本に精査するなりの議論も必要でないかな、と思っておりますし、コミュニティバスの意見のほうが強いのかなと私は思っておりますけども、これもやはり、財政のある程度、どのくらいの費用がかかるのかなということも、そこらへんももう少し研究する必要があるのかなと思います。
 - 委員長(牧野茂敏) 増田委員。
 - 委員(増田武夫) 確かに忠類地域はどうするかとか、色んな問題あると思うんですね。
今の意見もありましたけれど、交通手段をいかに確保していくかということは、絶対に必要なこれからの課題だと思いますね。色んな研究をさらにしなければならぬ、というお話もありましたけれども、やはりそういう方向で陳情があがってきたわけで、これをやっぱりそういう方向で検討していくべきだ、ということになれば、どういう方法でどうやって利便性を図っていくかということは、行政がきちっとやっていくことで、我々はどこをどう走らせるとか、忠類地区はどうするかということまでを、我々がここで遡上に挙げて、それまではっきり研究しなかったらこの陳情を云々できない、そういう問題ではないと思うんですね。これだけの要望があるし、我々もいってその必要性を認めてきたわけですよ。ここにタクシーの助成というのも入っているのも、農村だとか忠類地区の問題もあるので、そういう問題も含めて、町は全体の町づくりとして、どういう計画を持ち実施に移していくかというのは、行政がどういう選択をしていくかということで、我々がここで遡上にあげて、どうすべきだ、ああすべきだという問題ではないので、陳情としてはそういう陳情の趣旨に賛同ということであれば、きちっと結論すべき性質のものだと思います。
 - 委員長(牧野茂敏) 今、増田委員のほうからこういうお話が出ましたがどうでしょうか。
乾委員。
 - 委員(乾邦廣) 増田さんのご意見はもともとだと思いますけど、議員としてもそれなりの責任を持って、財政を含めた中でのしっかりとした財源を確保しながら、決めていくことも大切だなと、私は思っております。
 - 委員長(牧野茂敏) どうでしょう、そのほかの方。助川議員。
 - 委員(助川順一) ある程度の大きな予算を伴う場合は、どこかを削るだとか色んな考え方、理事者はされると思うんですけど、そういった部分にもいくらかの、先は全部任せれば良いというのではなくて、勿論、増田さんの言うことも十分理解は出来るんですけど、それはそっこの考えることなんだろうと。ただ、こういう財政状況ですから、そういったこともいくらか頭において、陳情の扱いはするべきだと思います。
 - 委員長(牧野茂敏) 藤原委員。
 - 委員(藤原孟) 確かに陳情の2点、コミュニティバスとタクシーという両面性がでています。
ただ、このまま陳情を採択ということになっていくと、当然、今、皆さんが心配されるような大きな予算ということも出てきます。特にコミバスに関しては、何千万円というバスを民業のことも含めまして、私らも十分検討したいということは私の気持ちとしてはありますので、その辺のことも今後の考え方を示していきたいな、というふうに思っております。
 - 委員長(牧野茂敏) 増田委員。
 - 委員(増田武夫) 確かに予算的なことも、それは不可能なようなことを陳情してもあれなんですけど、しかし、これだけの要望があるわけだし、しかも今年の12月からは芽室も本格実施する、清水もそういう方向にいつている、音更は10年来やっている、という中で議会としてもそういう方向で町も努力してやって欲しいという、そういう陳情に対して議会としてそういう方向の必要性を認めるのであれば、そういう方向で行政にも努力を求める姿勢が大事だと思うんですね。更に研究が必要だ、というのはここで結論をださないでという意味なのか、ちょっと分

からないんですけど、12月の議会に提案された切実な願いでもあるわけですし、12月議会であまり性急に結論をとという話でしたので、継続審議になっているわけですが。そんなに無理な要望ではないと僕は思うんですよね。だから、どういう形でお金がかからないように、どうやって交通手段を確保していくかということ、行政に議会の姿勢としてもこの時点で求めることは、そんなに無理なことではないし、議会としても住民の要望をいかに行政につなげていくか、そういう姿勢も必要なもので、こういうことをやるべきでない、という人は一人も居ないと思うんです。そんなに何億も掛かることではないんだから、しかも周りの町村もどんどんそういうことをやって、町づくりをしてきているという状況の中で、議会がこれについて結論を渋るといいますか、そういう意見は理解できない。やはり早急に結論を出して、そして議会としても住民の意思を受け止めていくべきだと思うんですよね。僕はそう思います。

- 委員長(牧野茂敏) そのほかありませんか。ただ今、それぞれ意見をいただいたんですけども、外出の交通手段については、私の感じる限りでは皆さん賛成されているというように伺っているわけなんです。あと、今、増田さん言われたように、手段の問題ですよ。コミバスあるいはタクシー、両方、両立であがっていますけれども、財政当局がどう考えるかというのは、この委員会で陳情としてあげれば、また考えることなのかなと思いますけれども、そういったことも勘案しながらこの陳情をどう扱っていくのか、というのは問題点が大きいのかな、そんなふうに思いますんで、更にはいい意見があればお伺いをしたいと思います。助川委員。
- 委員(助川順一) このことに対する、陳情に対する反対は委員長のいうとおりの無いですから、あといろんな民業圧迫とか財政の問題もあるでしょうし、そういうことで付帯意見をつけてということはどうですか。民業のこととか色々ありますよね。あとはコミバスですとか、もう一回補助がつくといいましたよね。そうしたことも勘案して町としても、具体的な部分は町が考えてもらうことだし、そういったそれぞれの皆さんの提言というか、そういった部分を文章として、だせるかどうか。
- 委員長(牧野茂敏) ただ今、付帯意見というお話がありましたけれども、この辺については、陳情について採決して付帯意見ということになるかと思えますけれども。どうでしょう、ただ今の意見については。
- 委員(増田武夫) これを採択するかしないか。当然、皆さんの必要性からいったら採択になると思うんですよ。採択して、そういう民業圧迫しないような形で欲しい、という付帯意見をつけるべきだという意見が多ければ、それも可能なことだと思うんですよ。やはり、採択か不採択かの結論を出して。いつまでも結論を延ばして、もっと研究すべきだ、という形で行くべきではないと思います。やはり議会なり委員会の責務を果たすためには、きっぱり結論をだして、こういうそう難しい陳情でもないわけですから、しかも多くの人々がそれを望んでいることであれば、二つの定例会をまたいで検討してきたわけですから、きちっと結論をだして陳情者にも応えるべきだと思うんです。だから、いつまでも棚上げして、まだだまだだと言っていることでは、議会としての責任を果たせないと思うんですよ。
- 委員長(牧野茂敏) 助川委員。
- 委員(助川順一) どちらにしても、3月議会ではきちっと、本会議でそれなりの結論を。
ただ、その付帯意見、色々皆にだしてもらって文章化して、ある程度まとめて委員長、副委員長に任せるといふわけには、いかないですか。
- 委員長(牧野茂敏) とりあえず、付帯意見を付けて採択、不採択まだやっていませんけれども、仮に採択ということでも皆さんよろしいということであれば、話を。増田委員。
- 委員(増田武夫) これは陳情として、そういう交通手段を確保して欲しい、それは皆、賛成だという。それは、どう実施していくかということは、執行者の意思で、例えば民業を圧迫しないだとか、忠類地域をどうするのだとか、農村地域はどうだとか、そういう執行していく上でのいろんな配慮というのは、当然行政として。それを無視してやるような行政では、皆に受け入れられないわけで、それはその辺はどう執行していくかというのは、町長の、執行していく側の裁量の問題だと思うんですよ。だから、それまでも、ああだ、こうだと付帯意見をつけ

て、どうすべきだ、こうすべきだというのは、果たしていいかどうかという問題も、出てくると思うんですね。だから、民業圧迫しないように、だとかいうような配慮をしてくれというようなことは、いいと思うんですけど。

- 委員長(牧野茂敏) 委員長、副委員長ということでありましたけれども、ちょっと休憩させていただいて、付帯意見の大筋の中身だけでもよろしいですから、皆さん話し合ってもらったほうが、私としても副委員長としても、作ってくれといわれても、これまた大変なことだと思いますので、いったん休憩しますので、話し合ってください。

(暫時休憩)

- 委員長(牧野茂敏) それでは、再開いたします。私自身の判断、委員長としての判断なんですけど、皆さん、大筋では高齢者の外出の交通手段の陳情については、多分、賛同していただくと。先ほど助川委員から言われた、賛同ということになれば当然採択されるんですけど、その中で付帯意見を付けて出させていただくという方法で、よろしいですか。付帯意見は、まだこれから考えるわけなんですけど。3月9日に委員会があるわけなんですけど、そのときに付帯意見をつけて採決をさせてもらおうということ。そういった方向で本日のところは、よろしいでしょうか。それでは、付帯意見については私と副委員長のほうで作らせていただきますので、それによって3月9日に当委員会を開催いたしますので、そのときに採決を決したいと思っておりますがよろしいでしょうか。

(はい、の声あり。)

- 委員長(牧野茂敏) それでは、そのほか何かありましたら。なければこれで、総務文教常任委員会を閉会いたします。

(14:03 閉会)